



よしだ 議会だより



吉田町駅伝大会

第84号

吉田町議会

〒421-0395
静岡県榛原郡吉田町住吉87
TEL:0548-33-2141
平成29年2月発行
責任者 議長 大塚邦子

平成28年第4回定例会	2
平成29年第1回臨時会	3
一般質問 6人が町政を問う	4
委員会報告	10
まちの話題	12

エアコン設置

28年度一般会計補正予算（第2号）

歳入・歳出 5億655万円の増額(補正後105億227万円)

【補正予算の内容】

◎主な歳入

・国庫支出金（臨時給付金）	7,163万円
・県支出金（学校施設環境改善）	4,505万円
（木造住宅耐震補強）	195万円
・寄附金（ふるさと納税）	8,000万円

◎主な歳出

・臨時福祉給付金事業	7,163万円
・児童館防犯対策（防犯カメラ2台）	1,800万円
・小学校空調設備費	2億4,399万円
・ふるさと納税返礼事業	5,410万円
・TOKAI-0事業、木造耐震助成事業の拡充	1,659万円
・自彊小学校備品購入費（新1年生増加）	217万円
・ふるさと納税寄附金基金	5,770万円

12月1日から12月16日までの会期中、第4回定例会を開催し、条例の一部改正5件、一般会計・特別会計補正予算2件、規約の変更1件、路線認定1件、人権擁護委員の推薦2件、教育委員の任命1件、工事請負契約の変更1件、計13議案を審議し、全会一致で、可決認定、適任および同意した。また、副議長の選挙、吉田町選挙管理委員会の委員および補充員の選挙を行い、議員発議による発議案を可決した。

一般会計補正予算

歳入質疑

問 ふるさと吉田寄附金の見込みが3千万円から1億2千万円、その後、2億円と増加した根拠は。

答 6月21日から開始した、インターネットサイト「さとふる」による寄附金の11月までの状況をみて3月まで推計し見積もった。

歳出質疑

問 時間外勤務手当が増えているが、慢性的超過勤務となっていないか。

答 ワークライフバランスがあり、各課長が確認している。時間外の方は増えている。職員の健康管理もしながら適正な人員管理、業務管理をしている。不要な超過勤務はない。

職員の見直しについて

問 職員の見直しについて、民間委託など業務量と人員の見直しはどうか。

答 定数管理をしている。今後弾力的な運用を図り、行政需要・財政・経費を含め、総合的に判断しながら定数の見直しをしていきたい。

児童館の防犯カメラ2台の根拠は。

問 児童館の防犯カメラ2台の根拠は。

答 日中においては防犯対策、夜間においては不法侵入者の撮影をする。防犯カメラ作動中の掲示をする。



児童館

小山城の売店横のトイレ改修は進んでいるか。

問 小山城の売店横のトイレ改修は進んでいるか。

答 以前からトイレの問題があった。今回はユニバーサル事業の中で県振興協会の助成金を使い改善する。

小学校のエアコンの動力は、運転コスト・防災・CO₂削減に優れたガスはどうか。

問 小学校のエアコンの動力は、運転コスト・防災・CO₂削減に優れたガスはどうか。

答 吉田中学校では、電気による空調工事を行った。町内3小学校も電気によるエアコンを考えている。

吉田町公共下水道事業特別会計補正予算（第2号）

歳入歳出予算の総額に52万9千円を追加し、11億7027万円とした。

町内3小学校への

条例の一部改正

吉田町職員給与に
関する条例

(主な改正内容)

- ・民間給与との格差解消のため、世代間の給与配分の観点から若年層に重点を置きながら給与表の水準を上げる。
- ・勤勉手当を年間0.1月分上げる。

吉田町国民健康保険
税条例

議会議員の議員報酬
及び費用弁償等に
関する条例

特別職の職員で常勤
のもの給与等に
関する条例

吉田町税条例

いずれも質疑なし

規約の一部変更

静岡県市町総合
事務組合規約

質疑なし

路線の認定

問 町道認定の条件・基準はあるか。

答 町道指定するものには2つの大きな項目がある。1つは技術的な基準が満たされているか、2つ目は、権利関係が整理されているかについて、相談・協議を行って両方整った所で町道に認定される。



多目的広場

工事請負契約の変更

平成28年度農山村地域整備交付金吉田漁港多目的広場盛土工事請負契約

質疑なし

人事案件

人権擁護委員の推薦

- ・増田信行氏
- ・増田真也氏

吉田町教育委員会の委員の同意

- ・北澤雅恵氏

吉田町選挙管理委員会の委員及び補充員の選挙

・委員

- 浅井清士氏
- 町田吉久氏
- 水野吉雄氏
- 大石康夫氏

・補充員

- 石橋優氏
- 守谷孝平氏
- 大石晴美氏
- 池ヶ谷一朋氏

12月議会定例会に、副議長

の辞職願が河原崎昇司副議長から提出され許可された。

副議長選挙が投票によって行われた。

- 大石巖議員 7票
- 増田剛士議員 6票

大石巖議員が副議長に当選しました。

発議案の提出

吉田町議会議員の行為規範を遵守する決議

平成28年1月吉田町商工会新春賀詞交流会終了後、議員の飲酒に係る事件において、町民、主催者、関係各位に対し大変ご迷惑をお掛けし議員と議会全体の信頼を失墜させたことを重く考えている。

今後は町民の皆様にご迷惑や不信を招くことのないよう、議員一人ひとりが議会基本条例を遵守する事を誓います。

(二部略)

平成28年12月16日

吉田町議会

1月18日に第1回吉田町議会臨時会を開催し、28年度一般会計補正予算(第3号)を審議し、全会一致で可決した。

歳入歳出補正額4億6,985万円(増額補正後109億7,212万円)

◎歳入

- ・国庫支出金(児童福祉費) 138万円
- ・寄附金(ふるさと納税) 4億6,800万円(累計6億6,800万円)
- ・繰入金(財政調整基金繰入金) 46万円

◎歳出

- ・放課後児童クラブパソコン、コピー機 185万円
- ・ふるさと納税返礼代、委託料 3億2,734万円
- ・ふるさとよしだ寄附金基金費 1億4,066万円



町政を問う

遠藤 孝子 議員

問 防災公園の利用と防災意識の向上は

答 情報の発信や防災知識の普及・啓発

問 災害時の防災公園の仮設住宅および関係施設は。

答 津波防災まちづくりは、三つの柱がある。①命を守る対策として、15基の避難タワーを整備するとともに、避難路の整備もおおむね完了した。

②町民の財産や企業の生産活動を守る対策として、シーガガーデンを構築し、被災時防災公園には仮設住宅68戸、耐震性貯水タワー、マンホールトイレ、かまどベンチを整備した。

③災害時の生活支援対策として、仮設住宅に生活物資が潤沢に供給できるように内陸フロントエリア推進区域のマックスバリュ東海株式会社、株式会社ノジマと「災害時物資供給支援協力に関する協定」「災害時に裁き拠点に関する協定」締結した。

問 平常時、防災公園の防災情報発信拠点としての機能は。

答 オアシス館に防災町内情報発信ツールとして大型タッチパネルや防災拠点施設が分かる床面グラフィックを整備、防災資機材の展示、非常食の試食体験などを展開する。

問 防災意識の向上を図る対策は。

答 地域防災指導員による住民への防災知識の普及・啓発およびフォローアップ研修を開催。ジュニア防災士には地域防災リーダーとして育成を図る。



防災公園のかまどベンチ

問 高齢者が住み慣れた地域で暮らすには

答 生活支援サービスを担う事業と連携

問 「居場所づくり」の支援策は。

答 積極的に支援し、地域の支え合い体制づくりを構築する。居場所づくりに関するガイドブックの作成を考えている。

問 ボランティアとの連携は。

答 ボランティア講座の参加者から関心のある分野を聞き、地域の福祉活動につなげる。今後の講座はコミュニケーション技術の習得、認知症の方への対応方法、介護技術の習得、居場所の必要性などの内容を予定している。また、ボランティアの活躍の場も紹介する。

問 高齢者の移動手段の対策は。

答 新たな「日常生活移動支援事業」として、高齢者や重度障害のための、移動支援について総合的な福祉施策の観点で事業内容を直し利用しやすく満足度の高い事業を展開する。



町政を問う

増田 剛士 議員

問 町のソーシャルメディア活用は

答 来年度、新しいアプリを開発し活用して頂く

問 「町のICT利活用の取り組みと公衆無線LAN環境整備について」と題し、マイナンバー制度導入により、行政事務の効率化を目的としたICT利活用の取り組みが全国的に加速している中で、当該町の取り組みについて質問をしました。

答 自治体クラウド後の方針は、行政情報の管理の現状は庁舎内のサーバーで行い、災害時に備え予備サーバーを設置している。また県外に暗号化した情報データを分散保管している。来年度からクラウドサービスの導入を予定している。

問 クラウド化は、町単独で行うのか。

答 2つ以上の自治体での共同クラウド化を考えている。

問 将来的には、防災策と賑わいの創出を図るシーガーデンシティ構想を中心に魅力ある地域づくりに取り組み、本町への新しい人の流れを促す手段として、公衆無線LANの整備をしていく。

答 現在の設置状況は、町立図書館1階コーナーと北オアシスパークのオアシス館の2箇所である。

問 町の情報公開のためSNSなどソーシャルメディア活用についての施策は。

答 町の情報公開の取り組みは、SNSなどソーシャルメディア活用について、現在、町立図書館1階コーナーと北オアシスパークのオアシス館の2箇所である。

問 現在の設置状況は。

答 町立図書館1階コーナーと北オアシスパークのオアシス館の2箇所である。

問 町立図書館1階コーナーと北オアシスパークのオアシス館の2箇所である。

問 町立図書館1階コーナーと北オアシスパークのオアシス館の2箇所である。

答 双方方向の情報伝達機能をもつSNSは、短時間で広範囲に情報が伝達するが、反面、事実と異なる情報でも、同様に拡散する恐れや、情報漏えい、自治体への中傷、風評被害などの危険性がある。これらの状況を踏まえ、一方方向の情報発信アプリを導入する。



Wi-Fiが使えるオアシス館



問 災害時優先業務は決まっているか

答 災害対応マニュアルなどに定めている

熊本地震時、業務の優先順位を定めていなかった自治体において、災害対応や行政サービスに深刻な影響が出たことで、BCP（業務継続計画）の重要性が増し、改めて策定が求められている。そこで私は、ハード対策と共に必要なソフト対策として、BCPについて町の考えを質問しました。

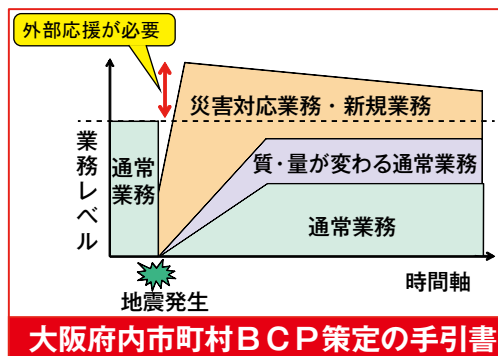
問 BCPは定めているか。

答 5章構成の計画として、本年度中の策定を目指している。

問 災害時対応マニュアルに「どのようにやるか」が明確になっているか。

答 災害対応業務を円滑に実施するための内容や方法が、具体的に明示してある。

BCP（業務継続計画）とは、災害時に行政自らも被災し、人、物、情報など利用できる資源に制約がある状況において、優先的に実施すべき業務を特定し、業務の体制や手順、継続に必要な資源の確保などをあらかじめ定める計画である。



問 災害時の業務の優先順位が明確になっているか。

答 災害対応業務（被害調査・罹災証明書発行など）を優先し行う。通常業務において優先度の高い業務の継続については、今後、BCP策定過程で精度を高めていく。

問 庁舎および設備の備えは。

答 役場の庁舎は耐震基準を満たした建物で、停電時も非常用発電機で業務が継続可能である。また、行政防災無線や各種防災資機材などを整備し保管している。

問 庁舎全体での災害対応業務へ当事者意識は。

答 職員は、町民の皆さんの奉仕者であり、災害時に直ちに参集し、災害対応業務に当たる意識を全員が持っている。

問 災害対応マニュアルに基づいた訓練を行っているのか。

答 地域防災訓練で、3師会・榛原総合病院の協力の下、負傷者受け付け、トリアージから救急搬送までの流れを確認する医療救護訓練を実施した。

問 人員や物資の備えは。

答 人員や物資に不足が生じた場合に備え、他の自治体や複数の企業と災害時支援協定を締結し、業務を滞りなく実行する準備を万全にそろえている。

BCPの重要な要素	
1	首長不在時の明確な代行順位及び職員の参集体制
2	庁舎が使用できなくなった場合の代行庁舎の特定
3	電気、水、食料などの確保
4	災害時にもつながりやすい多様な通信手段の確保
5	重要な行政データのバックアップ
6	非常時優先業務の整理

内閣府「市町村のための業務継続計画作成ガイド」



町政を問う

大石 巖 議員

問 介護保険サービスの低下を招かないように

答 現在のサービス維持、対応に努力する

問 新しい事業に移行する体制や制度設計はできているか。

答 4月以降も、訪問介護および通所介護は各事業所ですべてと同様の利用者負担で継続してサービスが提供され、同額のサービス単価とする方向で検討している。

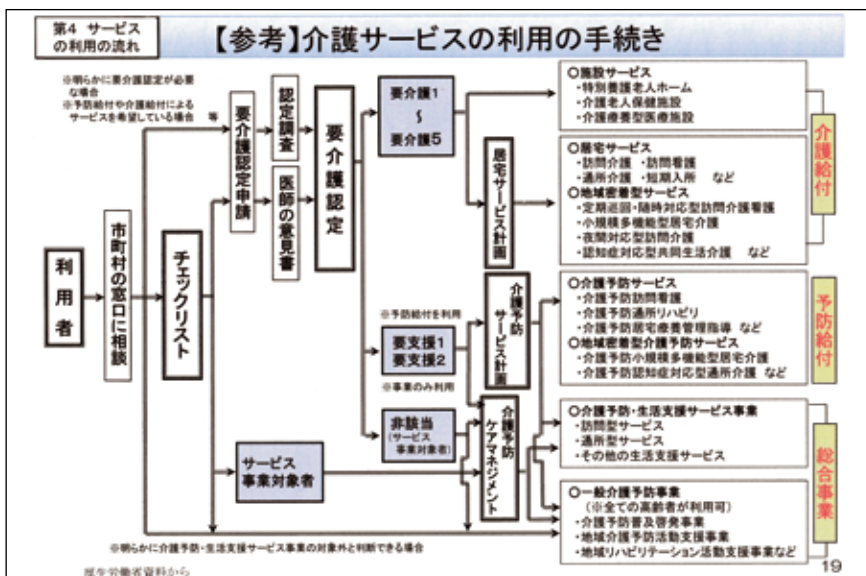
改定介護保険法により、これまでの「地域支援事業」が「介護予防日常生活支援総合事業」（略して「総合事業」）に吉田町では来年4月から移行する。要支援1・2認定者の訪問介護や通所サービスが介護給付から外され町のサービスとなり、サービスの基準、内容、単価、利用料などが各自自治体によって異なってくる予想される。介護サービスの切り捨てとらないよう質問しました。

問 訪問介護のうち、身体介護を除く、買い物・掃除・衣類の洗濯など軽度な日常生活援助を考えているか。

答 基本チェックリスト「要介護・要支援」認定申請を抑制することとならないか。

問 サービスの低下を招かないための施策はどうか。

答 現在、介護サービスを提供している事業者が引き続き総合事業に携わり、同様のサービスを行う。毎月1回、介護相談員を事業所に派遣し、サービスを維持するよう、きめ細かな対応に努力していく。町の計画である、「生活支援サービスと副社事業の充実」を実現するため、「高齢者向けワンコインサービス」の導入を検討している。



問 相談受付時に杖や車いすなどの福祉用具のレンタルを希望しているか、デイサービスやヘルパー派遣を希望しているかなどのサービス内容を確認し、適切な対応に努める。地域包括支援センターとはこれまで以上

答 高齢者の皆さんが要支援・要介護状態にならないよう介護予防に努めるとともに、適切に新しい総合事業サービスを提供し、安心して自立した生活を送ることができるよう支援していく。

「サービス事業対象者」より下の項目が加わり、地域支援事業が「総合事業」に変わる。



町政を問う

八木 栄 議員

問 要望への対処、サービス向上は

答 満足度向上を目指し取り組んでいく

問 町民から、毎日の暮らしの中で不都合を抱いたり、問題に感じたりする事が要望として町に出されます。今回は、土木事業に関する要望について、町民へのサービス向上に繋がるよう質問しました。

答 町民から出された要望書は、どのような手順を経て実施されていくのか。

問 町民から出された要望書は、どのよう

答 総務課（土木事業等要望箇所調査の受け付け）
↓担当課（要望箇所調査を受け受理）
↓現場確認
↓対応の協議
↓結果、直ちに対応できるものについては対処する。
予算措置や他の関係機関との調整が必要になるものは必要な調整を行った後に対応する。
↓回答書の作成通知
↓総務課
↓自治会
↓町内会長
↓組長
↓要望された本人へ通知。

問 一年間に出来た要望書に対して対処できる割合はどれくらいか。

答 平成27年度の実績で、都市建設課において、191件中148件78%の要望に対して対応を完了。

問 要望書に対処するための予算配分はどのようになされているのか。

答 町では、町民の要望に対処するため、「道路維持費」、「河川維持費」、「公園維持管理費」などの予算で対応している。

本年度からは、河川の草刈り、道路、公園の植栽管理などに早期対応するため、「環境保全費」においてマンパワーによる予算措置を行うなど、新たな試みも行っている。

環境維持活動の変化に対応する試みの一つとして、マンパワーに

よる予算措置を行ったが、人員を確保することが難しい状況が続いている。

草刈りなど、地域に密着した土木要望には、町の役割に加え、町民の皆さんの理解と協力が大きな力となる。

これらの状況を地域全体の問題としてとらえ、要望に対する満足度向上を目指し、自治会の皆さんと調整を行いつつ、官民一体となった有効な対策の実現に向け、今後、取り組んでいく。



町道 大坪線



町政を問う

山内均 議員

問 庁舎周辺の交通規制などの計画は

答 幹線道路において交通規制を行う

拠点整備計画と避難対策などについて質問しました。

問 地震発災時、庁舎周辺の交通規制などの計画はあるか。

答 吉田町地域防災計画では、警戒宣言が発令された際、避難路確保のため、幹線道路などにおいて交通規制を行う。

県地域防災計画では、当町においては「東名高速道路」、「島田吉田線」「国道150号」の3路線を「緊急輸送道路」として定めている。

問 総合体育館が支援助物資の拠点になっているが、震度7に耐えられるか疑問である、代替えは考えているか。

答 防災公園を中心とした富士見スクエアが物資の供給拠点になると考えている。

問 緊急時に備えた、駐車場の管理は考えているか。

答 庁舎東側の公用車駐車場は災害対策基地。中央公民館および吉田中学校第2グラウンドは自衛隊などが中心の応援部隊の活動拠点。庁舎西側の駐車場は町民の皆さんが利用する。

問 県立吉田特別支援学校の5階を防災倉庫に利用しているが、学校には学校の役割があり、非常時には避難所にも指定されている。機能の確保はなされているか。

答 体育館を避難所とし、福祉実習棟を福祉避難所として開設させていただくこととし、機能の確保はしている。

問 災害時には近隣住民との連携が最も重要と考える、計画はあるか。

答 目的や想定を決めて計画を立てている、どのような訓練ができるかを考えていきたい。

問 庁舎4階と5階には、避難器具が設置してある、避難訓練は実施しているか。

答 避難器具を使った訓練はしていない。今後の防災訓練などの機会を活用し、避難器具の実施点検と合わせて実施していく。

中型バスの小型化について質問しました。

問 平成8年の購入で使用年数が20年経過している。エアコンなど経年劣化による性能の低下や維持管理など、総合評価を考慮して小型を考えているか。

答 総合的な評価は必要であると思っている。効率性、経済性の観点から新規購入や借り入れ委託など最良の方法を検討する。



地震災害時の緊急輸送道路
島田吉田線及び国道150号交差点



たくさんの御意見、ご要望をこれからの
議会運営に反映していきます

第13回議会報告会

議会基本条例に基づき、10月
21日(金) 住吉会館
22日(土) 片岡会館
24日(月) 川尻会館
25日(火) 北区自彊館にて開催。
105人の参加を頂き、活発な話し
合いのなか意見交換を行いました。
ご協力ありがとうございました。

皆さんからのお話し

問 下片岡地区は人
口が増えていて
が、下水道工事の計画
は。

答 昨年、今年で見
直しをしている最
中です。

問 たばこ税の伸び
はなぜか。

答 喫煙人口は減少
傾向にあるが、値
上げで税収が増えた。
また、町内店舗での購
入者が増えれば、たば
こ税は増える仕組みに
なっている。

ご意見

- ・避難タワーや防潮堤が整備された所に、観光客は来るだろうか。
- ・議会報告会もだいぶ良くなってきた。当初は行政的な話しであったが、今回のように提案型とか、議会審議内容など、動きが分かり易く意見をいやすい。

各テーブルで盛り上がった「ご利益スポット」

- ・町内すべてのお地蔵さんマップを作製してみたら面白い。
- ・コース別、ご利益別でレンタサイクルの貸し出しは。
- ・町民が知らない話があり、興味を惹かれた。
- ・言われなどの案内板を立てればPRができるのでは。

40歳以上の健康づくり事業について

総務文教委員会報告

9月26日

- ・健康マイレージ事業
- ・生活予習慣予防啓発事業
- ・地区健康度アップ事業

などの健康づくりに係る事業について。

吉田町と他市町の実情を調査することを決め、健康マイレージ事業が活発に行われている、三島市と藤枝市を視察することを決定した。

健康度アップ事業に参加することを決定した。

11月6日

- ・11月6日 北区よしきた会館
- ・11月10日 片岡会館

11月14日

地区健康度アップ事業に参加し、課題について協議した。

・事業としては素晴らしい事業であるが、参加者が少なかった。課題は事業の浸透を図るための啓発についてである。

10月14日
町の事業である地区

委員長 山内 均



よしだ 健康マイレージ

宇多津町の臨海公園

人口18,000人余りの町へ観光客30万人集客 “ちゃりんこ王国”高松市の観光事業

産業建設常任委員会視察報告

28年10月11～12日

視察先

香川県宇多津町議会、高松市議会

視察目的

既存の観光資源開発の中で見つけた資源の活かし方と新たな観光資源開発による交流人口増大を図る施策を視察する。

宇多津町

臨海公園事業「うたづウミホテル」

昭和47年まで続いた「入浜式塩田」を昭和53年新宇多津都市開発整備事業として始め、土地区画整理事業・公共下水道事業・公共公園事業を行った。10年道の駅、18年恋人の聖地の認定を受け、更に海辺エリアが「みなとオアシス」に登録、21年リニールを行ない産業資料館を設置し、



うたづウミホテル 塩田

高松市

観光資源回遊事業

塩田、遊具広場、芝生広場などを設ける。リニール後の来園者年間30万人。宇多津町振興財団が21年一般社団法人、25年から一般財団法人として町の指定管理者となつている。

・12年11月「地方都市におけるレンタサイクルシステム導入」について社会実験を開始。瀬戸内国際芸術祭の開催に合わせ、市内中心部も観光できるよう無料レンタサイクルによる市内観光地の回遊を目指した。

「ちゃりんこマップ」発行により市内回遊の利便性を図った。

レンタサイクル事業13年5月高松市レンタ



レンタサイクル

視察総評

1 宇多津町、高松市の視察において、観光による交流人口増大を図る施策がはっきりと示されていた。

2 宇多津町の臨海公園に関する事業は、当町における「シーガーデンシティ構想」に参考となるものであった。新たな観光資源開発に

サイクル条例施行。大量の放置自転車課題となつていたため、その対策として放置自転車のリサイクルを兼ねたレンタサイクル事業が始まった。26年度に公募によるデザインをレンタサイクルに施している。

3 高松市のレンタサイクルによる既存の観光地巡りは、当町において自転車レーンなどの道路事情など、課題が多いと考えるが年中温暖で平地が多い地形は高松市と似ているため実現に向けた前向きな調査研究が必要である。

4 観光資源の開発は、行政、住民が一体となつて協議推進していく必要がある、賑わいづくりによる交流人口増大が、町に何をもたらすのか示すことの重要性を視察により学んだ。

議会フェイスブックページから、議会情報の発信中。
こちらからどうぞ

<https://www.facebook.com/yoshidachougikaict>

動画や写真のスライドショーなど、
議会活動の様子をご覧いただき、ご意見をお寄せください。



(QRコード)

飼い主のいない猫と人の共存のためにがんばる「吉田キッツ」

会を立ち上げた
きっかけは。

7年前、吉田町へ
引越してきたとき、
飼い主のいない猫が
多かったこと、車に
ひかれていた猫が多
かったことに驚いた
からです。

会員の構成は。

町内で主に活動し
ているのは二人です
が、協力会員も含め
ると10人います。他
市にも会員がいます。

会の活動内容は。

情報により、飼い
主のいない猫を保護
し、不妊・去勢手術
をするため動物病院
へ連れて行き、もと
の場所に戻します。
これをTNRといひ
ます。手術をした猫
は耳にカットが入っ
ています。オスもメ
スも手術をすること
で猫の喧嘩や発情期
も抑えられます。



耳をカットした飼い主のいない猫

今後の抱負は。

耳にカットが入っ
た猫を温かい目で町
民の皆さんに見ても
raitたいです。また
各方面の方のご協力
もお願いしたいです。
この対策の啓発と
理解を広げていき、
一代限りの命を全う
させつつ、不幸な猫
の数を減らしていく
ことが重要です。ま
た飼い猫も手術を徹
底し、外に出さない
でほしいです。

ますの話 題



川尻地区防潮堤現場説明会



成人式

あ
と
が
き

新春を迎えて

町では、安全安心なま
ちを実現するため、防潮
堤機能を備えた、広場の
整備による、防災対策と
にぎわいづくりを一体
的に進めています。先日、
吉田漁港東側の多目的
広場・盛り土工事見学会
が開かれ、海拔10メート
ルの高さを体感しまし
た。

議会だよりでは今年
もさまざまな成果をご
報告し、町民の皆さんに
役立つ紙面づくりを目
指してまいります。

(S・K)

議会広報特別委員会

委員長 三輪美由紀

副委員長 山口 一博

委員 蒔田 昌代

三輪 正邦

河原崎 昇司

大石 巖